WASON
HQ
1154
Jun. 9
1888
no. 113

廿一年六月（版權所有）九日發兌

THE WOMAN'S MAGAZINE.

# 女學雜誌

東京女學雜誌社

一冊五錢 府内無税 郵税一錢 毎土曜出版

第百拾參號


社説
男女交際論（第二）
男女交際は自然に應ふと云ふ事

論説
衛生と行政府との關係（宇川盛三郎）

批評
婦人に關する新語と經濟雜誌の答辯○女學の解と經濟雜誌及輿論新誌

叢話
郎跋なるを知らず○ソクラット妻○孟氏其妻の死去を愛子に報ずるの手紙○馬を問はず○戒指考（久松定弘）○愛は恐れずの悶○和歌總論（佐々木小鈴）○佳人の歎の英詩
小說神髓

小說

佳傳
モニカの傳

寄書

小供談

新報

# The Woman's Magazine.

## (JOGAKU ZASSHI.)

No. 113, JUNE 9TH, 1888.

EDITORIAL:— On Social Intercourse : No. II., Social Intercourse is Natural.

LEADING ARTICLES:— Public Health and Governmental Administration, by Mr. M. Ukawa.

CRITICAL NOTES:— Re-Reply to Keizaizasshisha's Query; "Jogaku" (The Study of Woman) and its Explanations of "Keizaizasshi" and "Yoronshinshi."

MISCELLANIES:— A True Love; The Wife of Socrates; The Pathetic Letter of Mompesson; He Inquires not about the Horse" (A Story about Confucius); Finger Rings (V), by Dr. S. Hisamatsu; Love do not Fear; On Japanese Poetry by Mr. M. Sasaki; "The Complaint" — English, by a Lady.

NOVELS:— Bouquet of Novels.

BIOGRAPHIES:— Monica.

CHILDREN'S COLUMN;— A Righteous Man.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

通信女學の廣告

一册枚數七十葉二十錢全國
無郵税半年前金一圓一年前金二圓也

左の第十卷此度發兌せり以後每
月切度十五日發兌

**通信女學第十卷發兌**

此度の號より大ひ
に改良を加へたる所ろあり諒焉

今度所々の婦人會の教科書に用ひら
れたり倘廣く購讀を乞ふ

女學雜誌社

●珊瑚の珠　（第六十八回）

○伯樂は欺くに馬を以てす可らず君子は欺むくに人を以てす可らず（荀子）

○千羊の皮は一狐の掖に如かず千人の諾々は一士の諤々に如かず（趙良）

○一年の計は穀を種るに如くは莫く十年の計は木を樹るに若くは莫く修身の計は人を樹るに如くはなし（管子）

○十の良馬を得るは一の伯樂を得るに若かず十の良劒を得るは一歐冶を得るに若かず（呂子）

○朋友あるなしあれば必らず好朋友（エヂフルス）

○食ふべき骨あらば犬復た何んぞ人を嚙まん（ナポレオン）

○田畠に最良の肥料は持主の足跡なり（アリストートル）

○事務を爲すとは道路を行くに喩ふ最も近き道は最も無穢なるもの也（ベーコン）

○自から不幸を感ずるの時は即はち他人の事よりも多く自分の事を考へ居るの時なり（メレー、ライワン）

○天下を動かさんと欲するものは先づ自ら動かざる可からず（ソクラット）

○銹びて腐るよりは磨れて耗るを好しとす（カンベルランド）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第百拾三號　明治二十一年六月九日發兌

## 社説

### ○男女交際論（第二）。

其の効益、

之を以て、吾人は茲に男女交際の事柄を論ずるに當り、先づ尤も正當に其の効益を説き、次に甚はだ嚴密に其の危險を説き、終に其の方法を如何んすべきやを說かざる可らず。抑も男女交際の、吾が人世に効益ある、素と迂遠關接の道理に因てにはあらず、眞に明白至極、決して言ひ爭ふ可らざるの道理あるに因るなり。而して其の道理中の最初に數ふべきは、

（一）「男女交際は自然に順ふ」と云ふ事。

抑も人間は、一に社交の動物と申し、是非とも多く集まつて交際せねば成らぬものなり。何如に樂しき事も、之を衆と共にせざれば、何の面白味もなく、又何如に悲しき事も、之を多くの人と共にすれば、大ひに慰さむる所ろあり。物見臺の月も、一人で之を眺むれば、何んとなく哀れなり、左れど若し、芋を煮、茶を立て、友達と共に之を觀れば、其の樂しみ實に無限ならん。」斯の如く、人は別々に離るゝ時は不愉快を感じて、相ひ會する時に愉快を覺ゆるが故に、人間の天性は其愉快なる時に於て素直に發達し、其の不愉快なるの時に於て大ひに曲がる。此故に、能く交際するの人は、氣性自づからハキ〳〵として、絶えて鬱屈せず、才氣彬々として伸び、心中殆んど蟠かまる所を見ず。松の大木が何の故障もなく生長して、亭々森々、雲を凌ぐの風采あるがごとし。然るに彼の交際を止めて、一室に香を燒き、兀坐得々、たゞ其の脛小僧を友とするの人は、氣性自づからクヂ〳〵として、甚はだ偏屈なり、才氣一方に固まつて、心中常に不平を懷き、喩へば曲り屈ねつてやう〳〵に生長したる樹木の如く、甚はだ低くく、甚はだ嚴めしく、甚はだ見惡くきものあり。」左れば、人間が相ひ交際するは其の自然に順ふものなり。啻に如此くにして初めて其樂みの得らるべきのみにあらず、其の人間たるの價値も亦た、相ひ交際するにあらずんば決して發揮せざるなり。之を以て、天は、人をして何うしても交際せねば成らぬ樣に形ち造り、若し交際せずんば彌よ其の不快を感じ、遂に此世を去りたく思はする迄の、嚴罰を課せらるゝものとは知らる。

然かるに、世間一種の偏人あり、殊更ら世を遁がれて、隱遁



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と稱し、何か風流めきたる心持を以て、之を君子の行ひの如くに思ひ、杖を牽き鬚を捻り、優々自適して甚だ樂しみあるもの丶如くす。」之を以て、交際は浮世の務にして隱遁は人間大愉樂の處置ありと心得るものあり、眞に愚を極めたる見解にして、實に人性を誤まるの論なり。隱遁の人、世之を名づけて仙人と云ふ、仙人は決して此の世が嫌らひなるにあらず、固と大相に此世を好いて、非常に人間と關係したる所ろのものなり。但だ其の願ひの思ひ通りに成らざるか、若しくは何かの不平不滿ありて、或は人を怒り、或は人に愧ぢ、止を得ず憤發發心して山に入りたるものなり。而して其の人に怒るも人に愧づるも、素と之に關係するの念の甚だ強きが故に因り、即ち心中交際に屬するの愉快々樂を理想して止まざるの由縁に基づく。大隱は市に隱る、若しも全く交際が嫌ひあらば、則ち便利至極の都府の中央に住んで、而して勝手自儘に人と絶つて可なり。然るに事茲に出でずしてわざ〳〵と山に遁れ、或はわざ〳〵と豆腐屋に五里酒屋に三里の不都合を求るものは、是れ亦た矢張り交際を重んずる人性の大眞に由ると云ふべし。古人吟ずらく、

此處も亦浮世の人の訪ひ來れば空行く雲に身をまかせてん

如此く人を嫌ふものは即ち人に愧づるもの也、如此く人に愧づるものは即ち尤も交際を重んずるものあり。吾人之を朗詠して甚だ憫む」而て其の尤も笑ふべきは、彼の世を遁れて山に入の人は、即ち一種の人間より離れて、別に一種の人間を友とし、只だ其の交際の趣きを變る狀の可笑しきに在。見よ竹林に入るものは七人の友あり、商山に隱るゝものは四の老人仲間あり、或は赤松子に隨ふと云ひ、或は古人を友とすと云ふ、強て妻孥を見棄てたるものは則ち子僧を連れ、妻孥及び子僧を見離したるものは遂に止を得ず山川草木を友とす。以て人間は何の友もなくして暮らすとの出來ぬものなるを知るべし。」左れば古今仙人の數少なからず、俗人之を想像して特の外に樂しめるものと爲すは、未だ大ひに仙人の心中を知らざるものなり。仙人は止を得ずして世を遁れ、刻苦して其のさみしきを慰し、朝夜辛ふじて勉強して以て其の節を續くるもの也。思ふに彼の、山笑ひ、水清み、日光赫々たるの時、仙人自から省みて其身のツレなきを歎じ、昔しを忍で轉た丶涙に咽ぶともあらん。皇子ヲセラス、仙人の高踏勇退を賛美す、仙人の云く、實に山住ひほど不自由不愉快なるものはあらず、最早や辛棒し切れず、來年去て再び市に歸らんとすと。思

（二）

ふに支那日本古來の大仙人、其の市に歸らんとしたる者果して幾干ありしや、尤も憫れむべきと也。

人は夫れ如此くに交際せねば成らぬもの也。思ふに是れ天の妙工にして、之を以て人を樂しませ、之を以て人を研かせ、以て人をして彌よ高尚善美の動物と爲さんと欲せらるゝなるべし。」左れば人の交際する。又た餘まり相似たる同志にては之を爲さず、反つて其の性質の大に相違したるもの相擇んで一と組と爲るが如し。之を以て、俊秀の才子は、温厚の君子を友とし。剛邁の人は、從順の人を友とし。多血質は貧血質を友とし。神經質は無頓着を好み。ぐぢ／＼したる人は、活潑の人を愛し。きかぬ氣の人は、お心よしを賞し。をしやべりは、無口を喜び。差支へなき人物は、反つて多少癖あるの人に交はるが如し。」嗚呼、天の妙工贊美すべき哉。若しも此世に才子多くして而して才子たゞ才子を好まば、世は滅裂すべし。若しも神經質の人のみ多くして而して神經質の人同志相喜ばゞ、天未だ落ちざるに杞國すでに亡びん。但だ夫れ然らず、谷あつて山あり、犀あつて狼あるが如く、斯の如く出入淺深相償ふの方法甘まく行はるゝの故に、天地圓滿し、人間完全して世界駸々と進む吾人豈に之を感謝せざる可けん。

人は氣性の違つたるもの、尤も能く交はり、而して氣性の違つたるものゝ交際、尤も効益あるを知らば、吾人則ち男女の交際の、尤も樂しく、且つ尤も効益あることを知るなり。蓋し世には異性の人物多し、然れども之を概して、彼の男女兩性の如く其の氣性の大ひに相違する者あるを見ず。男は男らしく、女は自づから女らし。女の女らしからざるは人之を嫌らひ、男の男らしからざるは人之を笑ふ。即はち男は永遠に男らしく爲らんとして、女は常に其の女らしからんことを望む。男女兩性の相違判然として混淆せず、其氣性の違つたる、今后いつ迄も決して之を塗抹し去ること能はざるもの也。」於此乎、男子の女子に交はり、女子の男子に交はらんことを欲するの情は、素と天地自然の順性にして、造物主の外かは敢て之を變易することを得ざる也。而して其の之を求むるの強きは、恰も水の下きに就くが如く。之を求め得て其の安んずるは、恰も水の海に入て洋々たるが如く。之を求めて得ず其の不平なる、恰かも水の東流を堰き止められて四方に汎濫し以て人畜を害し家屋田畠を押流すの恐ろしきが如くならん。」故に男女の交際は人情の自然にして、元と天の命定する所ろたり。若し之に順がつて其の交際を自由にせば、男女雙方は之が爲めに非常の愉快を受



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

くべく、之が爲めに大いに其の質を美にすべしと雖ども、若し之に逆らつて、之を制止せば、其害の及ぶ所ろ實に測られざらんとす。」青天白日、太陽は中天に懸り、草木は歡待せり、是れ天地陰陽の氣相ひ調合して、其の交際の甘まく行はれ居るが故なり。然れども若し、陰陽相離れて、物其の調合を制止するあらば、百雷玆に轟ろき、電光玆にきらめき、大雨どう〳〵、草木震ひ、四方宛然として來世の大地獄界を現ずるに至らん。則ち是れ天地の陰陽相交際せざるに由ると云へども、人世の男女若し相ひ合せず、而して其の相ひ合せざるを彌よ離して以て彌よ之を制限せば、其の惡決果の及ぼす所、豈に啻に雷鳴電光ならん哉。」故に云く、人は交際の動物にして、男女相ひ交際するは、其の自然の尤も自然なるもの也。若し此の自然に順ふときは、男女各々美に達し、双方ともに非常の愉快あり。而して之を禁ずるの決果は、或は尤も惡むべきの不德となり、或は尤も憫れむべきの不愉快に陷いらんとする也。人豈に其の自然に逆ふを得んや、吾人は實に其の自然に順がはざるを得ざるもの也。

漢の武帝の返魂香は結句思のます種にて羅公遠が貴妃湯は二番煎にていよ〳〵効なし。

# 論說

## ○衛生と行政府との關係

宇川盛三郎 述　佃與二郎筆記

左は客月婦人衛生會常會に於て演述ありたるものゝ筆記なり。

私は衛生のことに就いてハ全く商賣違ひて恰も酒の好きな者が菓子のことのお話しする樣な譯でありますから衛生の事は何も申しません只今日お話し致して見たいと思ひまするとは少しく六ケ敷くなるの慮もありますが成るべく御子供衆にも分る樣に申す積りであります。

先づ國と云ふことハ一寸申しませう國と云ふことハ色々の說もありますが人が集ッて大いなる一集合躰をなしたものを國と申しますのです國と申します者に就てハ色々な公の用事があつて此の公事を取扱ひますものを行政府と申します行政府と云ふものは此の衛生に就て何ふ云ふことを致さなければならぬかと云ふことを申す積りであります。

先づ第一に衛生と云ふことハ如何がの者であるかと云ふことを學問上のことハ商買違ひだから申し上ませんが只私が伺ッた所では我々の健康を保存しからだの達者になる樣に注意すると

云ふことの樣に承知しました夫れから醫者のと醫術のとは如何にと云ふに我々のからだが色々の譯でわるくなり一ツの家にすれば庇が落ちたとか風で屋根が飛んだとか云ふ樣にからだの何處歟が惡るくなつた其時大工をたのむとか左官を呼ぶとか瓦を載せるとかして舊の家の通りにするのが醫者の仕事です是れと反對で衛生の方ではチヤント出きて居る家の如きものを壞崩れぬ樣にするのだと云ふことに承ッて居ります然らば私の考た所では斯う云ふことにならうと思ひますケチなお話しの樣だか例へば我々が働いて金を贏けるとして此の金で暮しをつけて居た所が何うした間違いか足りなくなつた足りなくなたつのは丁度家の一部分が破損して修繕しなければならぬと同じことで修繕するには借金と云ふことをするキッチリ百圓使へばよろしいに其上に修繕の爲めに五十圓の借金をしたと云へば百圓丈は健康の部分で五十圓は病氣になつた部分なのでせう故に平常注意して無達の使ひ方をせず無闇に芝居などばかり見に徃ッて錢を費はないと云ふのが衛生にあたりませう儉約とか身上持がよいと云ふのは衛生で身上持がわるく借金になつてから慌てると云ふのは藥を飲みはじめると云ふのと同じことです。モ一ッ譬へて考れば健康の人間が獨りある其人間は何うした間違いか叱られるイヤ罰せらるゝ其罰せらるのが醫術に當るのでからだが惡るくなつたから手も切り足も截てやらうと是れは醫者の仕事で罰せられぬ樣に間違いをしない樣に完全の人間にして置こうと云ふのが衛生にあたるのであり升左すれば衛生とは人間のわるくならぬ時のことで道德とか敎育とかにも似て居る道德があれは罪人になることはないと同じで衛生があれば病氣になることはありません夫れ故に衛生は身上持のよいのと同じく身の行ひもよろしく愼みもよろしく智惠を磨く爲めに學問すると云ふことに當るだらうと思ひます故に健康から衛生、次に病氣と云ふの順序にならうと存じます。

衛生に就て私の考は只今申し上ました通りだが是れからは前の行政府と云ふことになります行政府と云ふのは何かと云ふに勘定すれば大變だが國々によつて色々にあります日本では三千八百萬餘の人間がありまして此の三千八百萬餘人の結跡が日本と云ふ國になつて居るので其の國の公事を取扱ふものが行政府であります行政府は恰好三千八百萬餘人の會の事務を爲る樣なものでコチラの會の事務員の樣なものであります然らば行政府は何をするかと云ふに行政府の仕事は左程入込ん

では居りませんタッタ二ッしか有りませぬ即ち國の安寧と國の進歩の二ッであります安寧と云ふことは細かうすれば長くなるが何事も騒ぎの無い樣に盗賊などに逢ふことの無い樣に人が無闇に撲けば之を止めると云ふが如きが安寧の事業です是れに就ては國の内部のことゝ外部のこととあります内部と云へば西郷隆盛が戰を起せば之を鎮める、往來に酒に醉ッたものが亂暴して居る向島に花見に行けば喧嘩をして摑み合て居ると斯う云ふ樣なことの無い樣にしなければならん是れが爲めには巡査も必要なり兵隊も必要なり又喧嘩をしたのは何れが良か何れが否かと判決て貰うことも必要で御座ひます是れが第一の安寧と云ふことに關することであります夫れから第二の進歩と云ふことは國が進まずに只ジットして穩かなだけでは何も役に立たない何んでも國となつて居る以上は行政府は世話をして萬事進歩する樣にするのが第二の役目であります之を進るには色々の仕事が有ります例へば學校を興して人の智識を殖やす即ち教育の如き又は農業、商業の如き色々の事を奬勵して盛んになし又郵便の事業を整頓して手紙の往復を容易くし一本の電線で蝦夷の人と長崎の端の者が話しが出きると云ふ樣にする是等は國の進歩を計る爲めに行政府が爲すべきことだが行政府の仕事と云ふは先づ是んなものです。

然して國の進歩も亦安寧も何の爲めにするかと云へば人間の爲めにするので決して馬や牛などの爲めにするのではない人間と云ふものが有て國が出きて居るので詰り人と云ふものは國の元素となるものです故に人の世話もやいて貰わなければならぬから行政府が人の世話をすることになります左れば其世話は何れだけあるかと云ふに三ッあります第一は生れる事の世話、第二は衛生、第三は病氣と云ふ順になります子供が出來ればいゝとばかり云ふことも出來ません出來れば正き者(公生)とか正しくない者(私生)とか國と成つて居る以上は婚姻の仕方も極めなければならぬ又病氣はホオッテ置けば死んで仕舞う無闇にゴロ〳〵と死んでは國が消へ、國が消へれば行政府も消へます依て病氣を救ふと云ふことに就ては文部省では醫者の大學校も建て、地方では病院も建てゝ(行政府でも病院を建てるが)何うか病人を救ッてやりたいと考へも致しませう。ツレで行政府は出生の方も病氣の方も世話致しまするが其の間の衛生と云ふことも世話しませんと恰好拵へることと傷れたものだけを世話して傷のつかない樣に保存することをしないと同じことになろうと存じます。行政府で衛生の事を世話せずに病



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

だけの世話をするとすれば既に遲ひ多くは死んでしまうと云ふ事になりませう死にかゝつた者を救ふより死にかゝらない樣にするのが本當の順序でありますす故に行政府は豫め防ぐと云ふ事をしなければならぬ例へば巡査が歩行て居ても溝に落ちてから救つて遣るとか、落ちて呉れゝばいゝ、死んだら救つて遣ると云ふものではありません怪我をしさうになれば怪我をしない内に救ふのが當り前で行政府が衛生に世話をやくのも豫め防ぐと云ふ事になりますのです病人を救ふと云ふことは既に傷ついたものを拵へなほすので拵へ直す事が出きなければ死んで仕舞ふのです。

故に政府では國の安寧、國の進歩を務ると同時に衛生の事も病氣の事も世話をしなければならぬと云ふ事になりませうソレで病氣の激しき例を申せば流行病と云ふものがあります流行病は御承知の通り滅多には御座いませんけれ共始終旅行をして居る樣なもので今年も東京に參るか參らぬかは知れませんが多くは南の方から參りますソーシテ一時に何千とか何萬とかの人がコロ〳〵と死んで仕舞ふので御座ひます是れは個〳〵の注意だけではなか〳〵防げませんから行政府が之を世話するの必要が起て參ります。

又外國との關係で政府が衛生の世話をしなければならんと云ふ事があります例へば只今申上げた流行病が船に乘て參る時〳〵は長崎に着たり又は直に横濱に着たりする事がありますが我〳〵が船に乘て大阪に行くと同じく虎列拉先生も國から國へと旅を致しますから國と國との關係が起つて參ります是れに就ては御承知の通り外國から船が參るとスレば若し其船中に虎列剌の病人があれば港からは上陸させぬ樣にします縱令ば横濱に參る船をは海の中に十日でも廿日でも留めて病氣の種が盡きたと云ふ時分に至りて上陸を許すと云ふ事になるのです是れに付ては色々面倒が起る事は新聞紙などで御承知でも御座いませうが私は去る明治十九年の春期に英吉利國から葡萄牙國まで船で參りました然る所私の乘て居る船には虎列拉がなかつたから直上陸が出きましたが佛蘭西國から葡萄牙國に參つた船は直ぐ沖で留られました之を見て港に上りましてから段々と其譯を承つて見ますと斯う云ふ事柄でありました元來此の時には佛蘭西國には虎列拉は全く無いのです、所が佛蘭西國の殖民地で三千五百里程も離れておる西貢と云ふ所があります爰に五六人の患者が有たのです夫だから多分其本國なる佛蘭西に此の病氣が旅行して居るだらう然うすれば此の



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

病氣が旅行して居るかも知れぬ佛蘭西の船が葡萄牙に參つたから其船に虎列拉が乘て居るかも知れないと云ふ大層の心配でありましたのです之を喩へれば私の親類の者が北海道で盜賊をした然うすれば東京の某も親類だから盜賊仲間かも知れない而て某は又婦人衛生會の誰さんと話しをして居たから此の誰さんも仲間であらう故に此の誰さんが來たらば門で反付ろと云ふと同じとですソシテ十五日殆んど二週間ばかりも海の中に留められたのを實見致しましたが是んなとは行政府の力でなけれバ出きません左もなければ我々一個人がお前の船ハ上陸を許さないと云ても駄目です行政府で之を留めても肯かぬ時ハ鉄砲で追ひ拂うとか又は戰さをすると云ふとも必要でありますソレからまだ色々御座いますが例へバ支那から日本に船が參ります然うすれバ此船には一人も病人ハ乘込まないと云ふの證文を出します左すれバ私が醫者なれバ役人と共に此の船まで參つて船の底から何から撿査して病人が無けれバ虎列拉の流行る土地から來ても直ちに上陸するとを許さなければならぬ此の證文即ち免狀を與へるとも行政府がしなければならんのです。

此の如き次第で御座いますから衛生上のとハ國の內だけでハ用が濟みません只今長與專齋先生のお話の通り空氣ハ世界を包み世界中に色々の病氣を持てあるくことで御座いますから虎列拉が日本の横濱に參れバ又風に吹き飛ばされて亞米利加にも移り然うかと思へバ歐羅巴にも渡つて又々日本にも立還ると云ふ樣なとがありますから各國の政府が殘らず寄合つて相談しやうではないかと云ふので衛生にかゝつた萬國の公會と云ふとを一千八百五十年に佛蘭西の巴里府で開きました即ち只今から三十八年程以前で御座ひます其れに出席したものハ佛蘭西、墺地利、以太利、西班牙、希臘、葡萄牙、魯西亞、土耳其の八ヶ國で御座ひます其の名代人が出て衛生上のとを相談しましたが二三年前の寄合ひには日本からも慥しか私しの友人なる永井久一郎と云ふ先生方を遣つて衛生上の相談をさせられましたとも御座ひます是等が國と國との上に於て政府が衛生上のとに世話しなければならぬと云ふとにありますのです。

日本なれば日本國の內部だけでも前の外に尚ほ澤山衛生上の用事があります井戸の掃除をする、惡るい水なれば是れを飲んではならない飲めば罰金と云ふ位にして之を防ぐ此等ハ政府が致さなければなりません縱令ば私の家の井戸なれば私ば

かり飲んで死ねばよろしいが外の人即ち他人をも殺すと云ふことにありますから井戸には蓋をして釘を打ち封印して愈よ悪るいなれば潰すと云ふ迄にもしなければなりません又人間の外にも悪るい病があつて獸畜かゴロ／＼死ぬ疫病があります此等ハ迚も御婦人方が往て世話をすることも出きません是非行政府が錢を出して相當の人を頼んで然う云ふことの無い樣にしなければなりません。

此の如き譯でありますから衛生上のことを行ふには一方では醫者の學問と一方では行政府の力と雙方持合ッてゝなければ役に立たなくなるのです佛蘭西の例を申し上げませうか佛蘭西では全國の爲めに中央衛生會と云ふものが設けてあつて醫者とか其他衛生のことに明るき人の相談する所で又各府縣に一ッゝ衛生會があります又各郡にも一ッづゝ衛生會があります其下にコチラで云へば町村と云ふでもないが佛語では「カントン」と云ふ一區毎に衛生會を設けてあります併し醫者の方で衛生の世話をするのも行政府の世話も何れも外側からの衛生で御座ひます例へば私が我儘をすれば巡査が來て叱ると是れ外側から責るのです子供が菓子を食べたいと云へば親達の申すには學校に行けば煎餅を一ッ遣るが若し途中でなまけていれば何んにもやらないなどと云ふのは皆外側から責め掛けると云ふことになります。

私の考に外側からばかりの責め方では衛生が全くなることハ出きないと思ひます就ては衛生の成立ちハ何うかと云ふに三ッのものから成立ちませう第一は家事衛生とか家内衛生とか申しませう西洋では「ドメスチカル」即ち個々の家の衛生と申すのです。併し若し間違ッたことをすると往かんから第二には衛生の學者が衛生のことを差圖する。第三には行政府から世話をすると云ふことになります故に此會で衛生のことを御研究になるのは第一の家内衛生で御個々の家の内の衛生を行ひなさるのが第一の目的であらうかと存じられます即ち醫者とか政府とかが外側から責め掛けるのではなくして内側で我々もアナタ方も個々が息才になつて醫者に禮をすることも廢め（だからと云て醫者に身代限りさせると云ふ譯ではないが）多く厄介になることの無い樣にして個々が皆然うなれば隣りの人も達者に村中、町中達者になり區内の人も達者になり府縣の人も殘らず達者になつて遂には日本中殘らずか達者になり尚も進んで世界中の人か達者になると云ふの順序で御座いませう故に此の家事衛生と云ふことが本統に出きて缺くる所なければ外側

からの道具仕掛けハ入らなくなりませう然うすればゞ行政府ハ外國から病氣か參ります時だけ豫防の方法を施せば事足る樣にならうと思ひます。

以上に申し上ましたのが行政府と衞生との關係で御座いまして衞生は第一家事衞生。第二學術衞生。第三行政衞生との三ッになつて三ッとも何れも必要であると云ふとで御座ひます私も此の會の賛成員となり御請けを致しました以上は何か御參考にあることを申し上げたいと云ふ所から右のお話しを申し上ました次第で御座ひます若し御退屈でありましたあら惡しからず思ほし召されんことを御願ひ申します。(完)

## 批評

### ○婦人に關する新語と經濟雜誌の答辨

「婦人に關する新語」に付て經濟雜誌が大ひある不審を申されたるに付き吾人ハ前々號の女學雜誌批評欄内に於て一應の答を述べ置たり。然るに同雜誌記者は其第四百二十一號に於て吾人の答文を悉く揭げたる後に引續き辨じて云く、

仲々勢能く述べられたれども…余輩は未だ女學開祖の言に感服するを得ず余輩は婦人改良婦人奬勵など云へる文字を以て婦人に對して失禮なる言語なりと謂ふなり若し夫れ大胆に無頓着に且つ滅法界にて可なりと云へば如何に粗雜なる言語を用ゆるも余輩は敢て咎めず然れども假初にも男女同權など云へる言語を用ゆるものにして婦人を下等視したる言語を用ふるときは余輩は爲に批評を下さゞるを得ざるなり余輩は改良と言ひ奬勵と云ふ文字は婦人に對して無禮なることを疑はず試に人あり女學雜誌記者を改良せざるべからずと云はゞ記者は必ず怫然として怒らん然らば則ち之を婦人に用ふることも亦た適當ならざるべし人心改良と云ふが如きは素より社會の理を解せざるものゝ言にして取るに足らず人種改良、社會改良、馬匹改良の如き文字に至りては余輩は敢て之を咎めず何となれば此等は吾人と同等と見做すべきものにあらざればなり奬勵の文字の如きは女學記者が自ら引證したる一例にても直ちに同等人の間に用ふべきものにあらざることを悟るに難からざるべし上等者が下等者に對する場合の外は用ふべからざるなり女學記者よ試みに思へ輿論記者が此點に於て記者を辨護せざりし一事を見ても改良奬勵等の文字の不都合なることを知るべし夫れ輿論記者は常に余輩の議論に反對せんと待構ふるものなり然れども流石に此點に於ては辨護しがたしと見たればこそ一言半句も述ふることなくして僅か女學と云へる文字に於て余輩に反對したるならずや（尤も記者の意見とは全く反對なれば記者に於ては難有迷惑なるべけれども）記者宜しく速に其非を悟るべきなり然りと雖も余輩は此文字に於て獨り記者を犠牲とするものにあらず世間此語を用ひしもの極めて多し皆な余輩の反對なり

經濟記者亦た窮せる哉、何んぞ其聲の悲しきぞや。吾人玆に大刀を眞甲より切下さんとして先づ記者が前號に於て相述べたる御自身の語を三方に載せて呈し、甚だ殘念ながら之を以て御自害を奬勵し申さゞる可らず。記者前に云へらく、

婦人改良婦人奬勵と云ふが如きは全く先頃各府縣下に行はれたる生糸改良物産奬勵など云へる文字に淵源するものにして婦人を以て生糸や物産の如き……無生物と同視して議論するとは甚だ驚き入りたる議論ならずや

即ち記者は、前に婦人を無生物と同樣に見ると云つて慷慨せられたる樣なるに、此度は上等者が下等者に對するの有樣即はち男女同等の文字で無いと云つて慷慨せらる。記者の如く女性に對する御信切の情の層一層に精やかあるは眞に感謝す

べきとなり、然かし此の感謝と共に此度の討論は最早全くお止めと成らざる可らず。

但だ少しく申置たきは、記者は平生理窟がお好きゆゑ吾人も亦た理窟を以て返答し人心改良人種改良等は生物中の生物を改良するとであると申したるに記者は此度之を一抹に附し人心改良などは社會の理を知らざるもの丶言にて取るに足らず人種改良社會改良などは吾々と同等の物に付て云ふに非ずと申さる苟くも進化論を知らん限り人心改良と云ふとが何故に社會の理に通ぜざるとと為るか少と伺ひ度存ずれとも其邊は先づ擱をき兎に角此等の者に付てすら改良と云ふ文字を用ゆるとの事は實事也即ち無生物にあらざるものに用ひ一婦人よりも高等なるものに用ゆるとする以上は婦人改良と云ふとも決して奇しきとにあらず。女學雜誌記者改良せざる可らずと云はゞ吾人は艴然として怒らんとの御推察、成程時としては怒れ共又時としては謝すべし即ち怒る時はナンノ生意氣を謂ふとして怒るとにて無生物とし下等者とされたるが故に怒るには非ず左れば吾人の長者にして若し此の言を寄せらる丶あらば吾人は則はち喜んで之を謝すべし。必竟吾人は前に理窟的に答辯したれど記者が左樣に通俗に出掛けて厭迄で文字上の事を彼此と云はるれば一躰改良と云へる文字より反對せざる可らず記者試みに支那人に改良と書いて見すべし之は良きを改むるとだと云はん漢學者に見せても六七年前には可笑と云ひ居たるとあれども今では改良で通用せり即はち改良とはヨクスルとの意味なるゆゑに日本婦人を改良しヨクスルと申さばとて少しも差支へはこれ無し。然しヨクスルと云ふとも又奨勵すると云ふとも喩へば「上等者が下等者に對する場合」の如き外は用ゆ可らずと云ふか左樣ならば教育と云へる文字も教導と云へる文字も全く相止めざる可らず。

左れど吾人は經濟記者の如き御信切の紳士を得たるとを深く本邦の姉妹の為めに謝するもの也何さま記者の御注意は素と好意に出づるものゆゑ少しでも此等の語によつて姉妹等が輕蔑せらる丶との事さへ明らかならば吾人は直ちに之に賛成して向後一切此樣の文字を用ひざらんとす記者乞ふ吾人を誤まる勿れ。只だお慰みに婦人の御味方を為る丶論者の忠告には兎角チリを取つてウッバリを其儘にするの前后あり嘗て或る人は憤然として申したりき女が妾と云ふは自身と其身を卑しくするものである卜而して其人は平生僕と稱せらる、又同樣の人あり切歯扼腕して申さる丶に世間の男子が己れの妻を人

に引合すに愚妻と云ふは實に女子を非常に輕蔑するものなりト而して御自身は其手紙に愚生と云ひ御兩親を愚父愚母と書くとを失念せられたり、思出したるまゝ附記して記者の一笑に供ふ。

○女學の解と經濟雜誌及び輿論新誌

餘まり長く相成り讀者にはお氣の毒ですが經濟雜誌が女學の二字に付ても亦た同様の不審を打つたるに付吾人亦た前々號の社説に於て細かに論答し置いたる處ろ之れより先き輿論新誌も亦た之に付て一章の答へを其紙上に掲げたるを以て經濟雜誌第四百二十一號には左の如く右二つの答辨を合せ掲げて且つ其の申分を添えたり、

女學雜誌の未だ辨ぜざるに先ちて一功名を顯へさんとや思ひけん輿論記者は早馬に鞭打ちて女學雜誌の御名代と云へぬ計りの騒轄にて余輩に向ひたりしが生憎や其御本人なる女學記者が自ら辨明するに及ひて御名代の辨明とは非常の相違ありしは近頃氣の毒なる次第と云ふべしサテ御名代の辨明に曰く

經濟記者の言ふ所は實に奇異なり記者は女學と云へば Science of Law（法律學）或は Science of Medicine（醫學）と云へる如く一科の Science of Woman（女學）なるものあるにあらざれば女學と云へる文字を用ふるは不都合なりと云ふ者の如くなれども世間普通に用ゆる所の女學とは Science of Woman と云へる一科學ありと云ふの意にあらず例へば女學雜誌と云へばとて女學なる一科學の事を記する雜誌と云ふにあらずして婦女子の學問を進め婦女子の學問を助くるの一端ともなるべき事を記するの雜誌なり

然るに御本人は曰く

蓋し當初、吾人が初めて女學なる新文字を申出し、定めし、窮屈なる漢學者には叱られ相なる熟字を製造したると、何さま開闢以來本邦に類なきの學問にして、漢學の本店たる支那國にては、尚更以て其例なき一派の學問なるか故に、扨ては止むを得ず大胯にも、斯る調合をば致したるものなり、而して、其意義を最と簡短に述ふれば、女學は、即ち、「婦女子に關する一科の學問」と云へるとなり。之を言ひ換ふれば、其心身に付て、其過去に付て、其將來に就いて、其の權利、地位に付て、及び其の現今に必要なる雜多の事柄に付て、凡そ女性に關係する凡百の道理を研窮する所の學問なり。

然らば則ち御本人に於ては女學と云へる文字を婦女子に關する一科の學問則ち Science of Woman と云へる意義にて用ひられたると明かなり且つ御本人は需要あらば男學青年學老人學老婆學もドーカ起して貰らひたしと述へられたれば愈よ以て明かなりとす玆に至つては余輩は此字義に關して意見を述べんよりは寧ろ御名代と御本人との討論を拜聽せんとを希望するなり

通辭は吾れ其の窮するを知る經濟記者玆に至つて彌よ窮すと云ふべし女學雜誌第百十一號社説女學の辨に曰く、

但だ殘念なるは女學の二字世人の之を見解すると甚へだ狹く中には只だ之を女子の學問即ち女子の教育と云へる意義をのみ指示すと思へるゝものありと覺ゆ……然れども世上に於て女學は只だ「女子教育の事」なりと覺悟せらるゝとも夫れ果た何の害かあらん吾々が大切に思ふものは彼の名目にあらず符號にあらず……

左れば輿論記者は其普通なるものに就いて答え、吾人は其の特別なるものに就いて答う二つの者固より討論の致しやうあく初めより覺悟の上の答辨と云べし。只だお可愛さうなるは即ち經濟記者なり吾人其面を打ち輿論記者其胴を打つ前后に虎狼あつて逃れ所ろのなき最と憫れむべきの境涯と云べし。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

## 叢話

○郎の跛なるを知らず

ハインリッヒ、スチルリンの自敍傳に云く、
ドリよ汝の契約の亭主は跛だがチマへ知つてるのかエ。お父さん夫れは私しも存じて居ますが、あの方は大相御信切で又潔ぎよく色々の事をお話しして下さいますからお御足の事などは少しも頓着いたしませんワ。夫はマア左樣だが一躰若い女と云ふものは兎角男風のよしあしを大相苦に病むものだからチ。ダッテお父さま、ウイルヘルム樣は其の有りの儘の姿で私に幸福を與へて下さるのですから、若しあの方が跛で居らつしやらなければ、私くしはモウお愛し申すとは出來ませんワ、
是れ眞正の愛と云ふべし。

○ソクラットの妻

哲學者ソクラットの妻ザンチッペは名高き性惡、癇癪持なり。一日餘程亂暴なる惡口を申し乍ら何は厭き足らずとや手桶の水をザムブと、良人の頭上にあびせかけたりソクラット最と冷澹、沈着として云く、
雷鳴の後ちは大抵雨が降ります、
如斯きは甚はだ感服せず。

○孟氏妻の死去を其子に報ずるの手紙

昔しモムペッソンと云へる人あり伉儷鴛鴦の如く甚だ睦じき愛妻ありけるが少さか風の心地すとて打伏したる病頓はかに重うなり果敢なくも死しぬ荼毘一片の煙すでに立去つて恨思未だ盡きず漸やく筆を執つて之を其の兩兒に知らせ遣りたる文言に云く、
愛兒等よ、此手紙は汝等の愛母の死去せられたるてふ凶報を持行くべし是は汝等一生のうちに來る損傷の尤も大ひなるものならん。蓋し信切なる愛する所ろの慰め手を失ひたるは實に余れ一人に非らず汝等も亦た凡そ世の中の子供が有ち得べき尤も温和なる母親より離れ去りたるなり。然し吾等は只だ一つの慰め樣あり即はち彼の死は吾等に取つて大ひなる損害なれども彼には反つて大ひなる幸ひならんと云へるとなり。臨終の際玆には申述べがたきほどの喜びを彼れが現はしたるとを思ひ出せば吾等の落膽を制して元氣を復する如し。左れば余は玆に彼れが臨終の折りの有樣を汝等に話すべし。彼は一時勞痎の如き病症にて大相疲勞したるが近邊の空氣の宜しからぬより躰力いよ〳〵弱はり之

が爲め病に罹ると甚はだ暫時にして乍まち不幸を見るに至りしならん。彼は是迄の過失を大に悔悟し毎々「救主の寶血の一滴願くは妾の靈魂を救ひ玉へ」と申したりき。又た彼は余が餘まり近く立寄ると制し余に其の惡病の傳染もや致さんかと掛念したり、然し玆に神に謝すべきは余れ此時斷決して余れを斯迄に助けくれたる愛妻を離れじとて暫らくも之より去らざりしとのみ、今に至つて甚はだ喜しく思ふ也。彼は病中此の世の事務に付ては少しも心遣ひせずたゞ主の御招きと德を立ることを確かにせんとのみ心懸け又た折々其召使ひに烈しき言葉を申したることを思ひ出でゝ切りに之を謝し居たり。病中餘の事にこそ隨分誤まりたる言を申したるが宗敎上の事に就ては正當の返答を爲して少しも間違ハず毎々共に祈禱したり。正に臨終に近づきし比ろ彼れ亦た余と共に祈らんと申せしゆへ共に祈禱して后ち何故なれば斯く申せしやと問ひたるに、最早や彼の樂しき時の近づきし故と答へたり。斯て祈禱を了り、何如に分りしやと問へるとき、然りと答へたる、此の答へぞ即はち最后の一言にて果敢なくも失せたり。愛兒等よ讀みて玆に至れば定めし汝等は限りなき歎きに咽せぶならん、然し汝等の母は今ま天に於て一の聖者となれりと信じて慰さめ玉へ。斯かる惠を與へたる天の父の贊美べき哉アーメン。

○馬を問ハず

孔子樣外に在り、お留守に其の馬屋燒けたり。孔子歸り來つて、人に傷は無かつたかと問ふ、馬はどうしたかと問ハざりき。人の次ぎには馬の事も問ふて欲しゝ、余まり殘酷の樣ではあるが先づ人を尊うとむの意味にて甚ハだ立派の覺悟と云べし」細君大切の植木鉢を持つて、二階より下りる。中途に足を踏み外づして、スッテンゴロリ。亭主バタ〳〵として二階よりのぞき、チャ〳〵鉢を毀わしたか、而して細君を問ハず。細君不平、離緣を申入れたり。尤もと云ふべし。思ふに此等の類をこそ、無生物と同視すと云ハん歟。否な無生物よりもモット惡しく見るもの也。

○戒指考　（其五）　久松定弘

其のち此戒指ハ商賈より或寺院に納めたりしが不思議の利生ありしといふ是より此戒指にならひて戒指をつくるものたびたゞしく遂には數百ヶ所の寺院におなじ樣ある戒指を藏るにいたりしも其靈驗ハなからざりしかば信徒ハ皆これを眞正のものとし其尊崇いづれも優劣なかりしとぞ。

愛あれば懼るゝ事なし

基督の母馬里亞及養父「ヨーセフ」が結婚のとき用ひたる眞の戒指は「ヘルウギア地」の寺院にありて毎年一回衆人の縦覽に供す其戒指の細工は極て拙なくたゞ純金もて造れる環たるに過ぎず左れども其形の大なること尋常の戒指に較れば殆ど六七倍あり「ヨーセフ」は非常に巨幹なる人なりと信ずるものゝおほきはこれが爲めなるべし。

猶太人は十六世紀の頃(一説には其以前よりともいふ)より結婚の際非常に大なる戒指をもちひ且これに種々の飾をなしたり戒指の形は太鼓の胴の如くにて側には家屋寺塔などの模樣を凸狀に鑄りその凸突する所は三四分の高さに至る者ありしといふ又その傍には希臘の語をもて「予は汝の福祉を祈る」等の語を彫り又その寺塔の窓牖門戸などは皆開閉の自在なる樣つくりたり想ふに古はこの中に驅魔の護身符を納しものならん歟尤この戒指は結婚の儀式にのみもちひて平常これを用ふる事はなかりしといふ今日に至りては獨逸はいふもさらなり其他歐洲諸國に散在する猶太人も亦前にいへる如き飾を戒指になすことなし。

玆に戒指のことにつき可笑一話あり今其要點を記さんに紀元一千零九十八年の事とか羅馬に貴紳の一少年ありて一處女と結婚しけり其時宴席に夥多の親戚朋友を招きしが少年はその親友の某と拋球の遊戯をなさんとて庭園に下立しが遊戯のために邪魔なりとて新婦と交換したる戒指を指よりぬき取りこれを庭中に据たる女神「ウエメス」の肖像の指にさし置きけり軈て拋球の遊戯を終り復び舊のところに皈りて戒指をとらんとせしに怪むべし神像の指は何時の間にか偏けん拳を緊と握りたり少年はこの分野を見て大に愕き氣味わろくは思へども已べきにあらざれば力を極めて神像の拳を幹開んとしつれども盤石もて刻たてたるごとくなれば其儘にして家に歸り更闌て後竊に起出て一個の從者を率て復び其塲に到りて見れば奇なる哉神像の指は常のごとく絶て怪むべき事なし唯その指にはめたる戒指のみ如何したりけん其近傍には見えず少年は肚裏大に怪しみ奈何にせましと沈吟なせども詮方しらず是非なく竊に寢室に歸りて打臥しが是より心地快々として樂まず且その妻と握手親嘴するごとに現ともなく幻ともなく虚空に人の聲ありて「妾が手を握れ妾は「ウエメス」女神なり汝が今日娶りしは妾にあらずや妾は復ひ汝に戒指を還さじ」と云にぞ少年も最初の程こそ耐へたれ後には遂に堪がたく或日親族許趣き件の一伍一什を語り扨奈何にして宜んと相譚ば某少年は

將て當時有名幻術家「ハルムブス」といへる僧の許にゆき指示を請えり其時妖僧少年にをしへていふ樣汝今宵某の時刻に羅馬の城址に行き四衢路ある所に立て無言にて行列の通過するを待てかならず容貌端正なる人馬車に乘て其處を過るべし其時汝はこれを遞與せよと一封の書簡を與へけり（未完）

## ○詠歌論第一。總論

佐々木小鈴

歌は人の聲にて思ふ事あれは聲必出づ其聲則歌なりされど歌は人の聲なから其詞にあやをなし調をとゝのへうたひ出るものゝたとへば平語にてかゝる嬉しき事は昔よりなかつたとのみいひては誰もいひ出す聲にして人感せされとも詞にあやをなし調をとゝのへてうれしさを昔は袖につゝみけり今宵は身にもあまりぬる哉といひ又我も明日は賴まれぬが今日は誰の死たるは氣毒なりといひては人感せざれとも明日しらぬ我身と思へとくれぬまの今日は人こそ悲しかりけれといひ出づれは人の感動するが知しされば歌は平語と同じくて同しからす詞にあやをなしみやひに調のうるはしからん事をむねとすへきなり。

歌は何の要ありてよむぞといふに世の爲人の爲身の爲に敎となりいましめとなり德となるものなり古今集の序に歌の德をのへて力をもいれすして天地を動かし目に見えぬ鬼神をもあはれと思はせ男女の中をもやはらけ猛き武士の心をも慰さむるは歌なりとありげにも誠實のいたれる歌には天地も感動ぬへく眞心の偏なる歌には鬼神もあはれむへく情實をつくせる歌には男女の中も和睦きぬへし又あはれの極めなき歌みはたけき武士の心もなこみけるためしあまた見えたり志かのみならす人の心をたのしましめ我心をもなくさむる德ある道あるを徒事なりと思ふはいみしきひが心あるへし。

歌は眞情より出るものにしあれはその主とするところは誠實を基としてかりにも詐僞の作物をよましと心がくへきなり眞心を離れたる歌をよみてはいかでか人の感動すへきくれ〳〵も誠實を失はしと心がくべし。

歌は神代より傳はりて今もたえせす人の敎ともなり人をたのしましむる爲ともなり我心をなくさむる種子ともありてかりそめならぬ道にしあれは其道を學ふにもくさ〳〵の敎ある事はいふも更なりされは今其沿革種類法則なとをつき〳〵に述てうひ學のたよりとせんとす、

おほけなくかきつらねたる言の葉よ
うひ山ふみの志をりともかな。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○佳人の歎（英詩）

女學雑誌第百十一號叢話欄内に佳人の歎と云へる一章を載せたる處ろ友人若松しづ之を英詩に譯して送附されぬ因て下に之を掲ぐ讀者も原との章と合はせて一覽を賜らば幸甚。

本號には空氣の説と云へる長與專齊先生の演説を掲ぐる筈なりしが餘白なきを以て次號に譲りぬ。

## 小説

○小説神髓

蘇格氏著　ケ子ルヲルス　（第十七回）

扨て其老父の暗誦するは陛下の御迎ひとして眞先に立ち出で儀式の壇上にて何かれ祝ひの文めきたる事を申すに付きての仕度なりとは知らる。目鏡越しに一寸つと睨らみて通うせぬ通うせぬと叱り乍ら又々一心不亂に暗誦せりチックは何の構うともなく其老父の傍らへツカ／＼と近寄り何事にや其耳へ口寄せてサヽヤキたれば老父莞爾として點頭づきニコ／＼として笑へり其間に難なく此の第三門を打通れば群集群を爲して人互に押し合ふより皆々分れて夫人とエーランドのみ辛うじて相伴ひ行きたり。

### *"The Complaint."*

(1)
*"It is a summer's day!"*
*So say the laughing flowers;*
*And flitting butter-flies enjoy the light,*
*Basking through the merry hours,*
*The earth was enamoured*
*By the sun's mysterious kiss,*
*Nor did the air, the balmy air*
*The bird's embraces miss.*

(2)
*A lady's shadow falls*
*Upon the sunny garden;*
*It lingers now aslant a bush*
*With blooming flow'rs o'er laden*
*Her heaving bosom told*
*Of a tender, longing heart,*
*As she addressed the flower of love,*
*Decked in nature's wanton art.*

(3)
*"A time there was when thou*
*"Wast a bud, slender and coy;*
*"A vail of verdure protected thee*
*"From a world of pain and joy.*
*"who taught thee then, she said,*
*"Thy blushing face to show?*
*"And coaxed, in spite of thee, fair rose,*
*"In light and warmth to glow?"*

(4).
*"One by one, thou yeilded*
*"Thy petals willing but shy;*
*"Far too tender to with-stand the charm,*
*"Potent, strange-Oh why!"—*
*Her voice was impassioned, low,—*
*"Am I not like to thee?*
*"Who taught me the mystic pain and love,*
*"Whoever could but he!"*

(5).
*"Canst thou thy chalice fold,*
*"Resume thy fragrance sweet,*
*"If, perchance, one fails to prize thee?—*
*'T-were well to be thus discreet!"—*
*She plucked the fated rose,*
*And dashed it to the ground.*
*Then with streaming eyes, the lady cried:*
*"Oh! neglect, thou giv'st this wound!"*



Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

左れど先づ暫らく腰を安んずべき場所もなければ番人らしき男に頼みて何處か少さかの部屋を御貸し下されと云ふに中々横柄にして聞入べうも見えず則ち少との金を包みて其の隱くしに入るゝに乍まち承知して之を或る二階の八角堂に案内し先づ暫時玆にて休息あれよとは申し呉れたり。

夫人は則はち事の始終を最と細やかに手紙に認ため其の髮を拔いて之を縛ばり滿腔の誠を凝めて無限の愛を包みエーランドに渡してレスター侯に捧げしむ。エーランド之を受けて外に出でつく〴〵と心配して其の仕事の六かしきよ弱はり果てもう〳〵早く此の婦人の一件を片付たらば寧ろ前日の靴直しと成り下るが何れ程の幸はひか知れず抑も之をレスター侯に捧ぐると云ふと何さま合點の行かざる所ろ多し彼の樣な婦人が堂々たる此城主を知らう筈なし若し間違つた事でも書いてあらうならば之を持つて行つた此の身が先づ何如なる嚴罰を蒙むるかも知れぬいつそ此手紙を旦那トレッセリアン殿の御目にかけ其の御指圖を受けたる後にこそ持參すべしと、早くも心を定めて彼方此方とさがし廻りたるうち當の主人には出で會はずして又もや彼のチックに行遭ひたり。チックは笑ひ乍らエーランドの肩をポーンと叩きどうだあの女の事を早く白狀して仕舞わぬか本當の妹だあどとは誰が見ても思はれるものか、ナニもう少し待て、待たなくとも其内には己れが嗅ぎ出して見せるワなど嘲弄し乍ら別れたるが此時そエーランドの持てる手紙を竊み知らぬ顏して彼方に行く。

扨て又トレッセリアンは陛下の御入來に先きだつて裏門より城に入り兼ねて割り當てられたる準備の部屋かの階上の八角堂に來る、其途中城內の庭の吹上泳ぎ遊ぶ睦まし氣の鴛鴦あどを見て昔しエメと閑靜なる田舍の田圃の間だに徘徊し相ひ手を携へて運動したる當日の樂しみを懷ひ起こし今比ろは彼のカムナプレスに押込められて果して何如なる慰さみにや日を消するあんど心煩らひし欝々として端なく彼の定まつたる部屋に來て見れば此は抑も何如にエメの姿た宛然として目前に現れたり、此ア忘想の致すところ吾ながら最と恥かわしき事と心を定め更らに眼を見張つてキット見ればまがう方なき彼の人なり。エメ即はち今のラブサート夫人は餘まりの事に仰天し何うして貴方は此の處ろへと問ふを押し止め、此處は私しに割り當てられたる部屋なれば左程の不審は候ふまじ只だアナタは何如にして此處に御出ありしやいと〳〵いぶかしき事なりと問へば、夫人はトレッセリアンの持部屋とは知ら



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ずは入り居たるとの耻かはしく面てに少との紅葉を散らし乍ら常もに變わらぬ御信切の御問ひなれども只今まは何分打ち明けて申し難しと云ふに、然し部屋も無くして此處に紛れて御出の程ならば定めし常ならぬ御困難のありしならん父上よりの御頼みもあれば此儘に見過ぐし申すとは出來がたし何なりとも御委頼みあれ必らず御身の爲め惡しうは計り申さじと云へば、夫人は靜かに之を謝し乍ら然し法律の上よりしても又た愛情の上よりしても此の近くに私しを保護すべき人の候へば決して搆はずに此儘に置いて下されよと云ふ。トレッセリアンは未だ夫人とレスター侯との關係を知らず一圖にパーチーが此を勾引して今まは其の情慾のとりこと爲せりと思へば此の一言を聞いて愕然として驚き、左樣ならばアナタはいよ〱パーチーの正當の妻とお爲り成されしやと問へば、夫人は身震るひして赫つと激し其樣なる穢らわしき事を申して下さるな抑も此の城主レスター殿の伯爵夫人なるをと言はんとして自から制し只だ恨みを飮んで沈默す。トレッセリアン之を奇しんでいよ〱不審し然し此の部屋に御出での程あらば左樣に御安心とは思はれ申さず矢張り困難の地に在らるとせばナゼ私しに其を打明けらるゝとの出來申さぬやと問ひ懇くるに、夫人は最早や答ふるに由なく左樣に仰せらるれば此のお部屋にも止まり惡くし眞とに御室をけがせしとの恐ろしさよ今まは止みがたければ出で行き申さんとて出でにかゝりたるが、又た思ひ止まりてトレッセリアンに向ひアナタは眞とに幼なき時よりのお友達にて初めは不肖ぬ妾わをもおつく御信じ下されしならずや左ればどうぞ今より二十四時間丈け何事をも私しに任せ私しの存じ寄り通りに爲させて下され其上は全くアナタにお頼み申すべし何卒元の如く信じてよと涙だを落して申すにぞ、トレッセリアン密かに悵歎しアナタが輕々しく御出奔を成されたと聞し時すら私は尙ほアナタを信じて少しも疑ひ申さゞりき今とて何條アナタを疑はんや只だ御身を案じて彼此と申せしのみ左らばお心の儘に成さるべし二十四時間の後ちには再び參り何かと御相談いたさんとて其儘心を殘して出で行きたる、愛思餘あつて緣共に合はず此の天然の眞朋友不幸にして如此くにして分かれ而して之れ其身の仇とは成れり歎じても亦た歎ずべき哉。

## 佳傳

○セント、アウゴスチンの母モニカ、

今や筆を執りて婦人の事蹟を述べんか又は壇に上りて家庭の教育を論ぜんには必ず例をセント、アウゴスチンの母に執以て其論を確むこれ啻に我國のみにあらず西洋諸國殊に基督教國に於ては其思想を支配せらるゝはアウゴスチンの神學なるを以て從て其母の名を稱する甚だ喧しく今日に至りては或は基督の教に反對しアウゴスチンの神學を輕視する人々にしても或は自ら一家を修め子女を教育するの力なき人々にてもモニカを以て婦人の軌範とし其蹟を傳へて其跡を逐はんとするに至れり誠に榮ある至なり何に依りて此の如くなれるやと尋ぬるに只能く謹しみて女子の二大職分即ち妻たるの務と母たるの務を盡せしに由る抑も此の二つの務たるや女子が生涯の事業を其中に含めば大凡女子が事業の成敗は此の二大區域の中に在り此の二大區域には女子の生涯にして事の理を辨じ人情を知りし已來髮枯れ脊曲み骨遂に土となるまで幾十年の間日々の行爲悉くこの二つの中に在り故に吾人は女子の好惡を辨ぜんに妻としては如何母としては如何の二問を以て其判斷を下さんと思ふ若モニカが生涯にして此の二問に十分の答を得ざれば決して婦女の軌範と尊ふに價なしと知るべし。

第一妻としては如何。と問ひ玉はゞ吾人は一卷の傳記を捧て實に妻たるの務を盡たるの人なりと答へん大凡夫婦和合の好からざるより遂に離縁と云ふ慘状を呈するに至る原因種々あらんが中にも宗教の合はざるよりして和合し難き程大なるはあらじ何となれば宗教が異れば目的が違ひ感情が違ふ其感情の違ふより意見相投ずる能はず其目的の違よりして其事業が違ひ一歩一歩又一歩と互に違ひたる點に赴けば復何時か和合するを得ん然るに夫婦合して一躰とならんとは實に難いかなモニカは基督教の信者にして其良人は異教の民なりければ事事に於て誹譏せられ朝夕に受くる迫害は烈火の責よりも遽しく自家一己の信を持せんさへ最と困却あるに能く忍耐して其姑に事へ其良人に事へ良人をして離るゝに離る能はざらしめたり其間の困難尋常一般の婦女子の能く忍ぶ所にあらず而してモニカは啻に忍耐して其分を盡せしのみならず其良人を愛する切にして其異教を信ずるの道あらざるを知り篤く祈りて遂に其良人を化して基督の信者となすに至り是に於て全く一家を得るに至りたり嗚呼モニカが其妻として盡す務は難を忍びて遂に全勝を得たり實に大なる哉今や我邦に於ても基督教日に盛にしてこれが信徒たる婦女亦多く或はモニカの地位に立つ人も多からん願くはモニカと共に聖典に云ふ不信の夫は



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

其妻に依りて潔らるゝと云ふ意を證明し玉はんことをこれをしも能くしなば實に能く妻たるの務を盡せしと云ふを得べし第二母としては如何。母として最も貴ぶ所のものは慈愛の心なり而して此の慈愛の心は天然自然母たる者の有する所の至情にして如何なる心醜き人なりとも皆其子を愛することを知り其子の爲めには其生命さへも惜まざる者もありて母と云ふ其字の中には其子を愛すと云ふ事を自づと含む樣となりたれば母として其子を愛するや否やと云ふ問は誰れも無益なる如くにて彼のモニカが一朝アウゴスチンの書簡を讀みて心の安からざるより家具什器を賣却して數千里外當時鐵道もなく滊船もなき困難なる驛次を經婦人の身にして而かも旅費に乏しきに百難苦節の後遂に其子に面せしと云ふが如き事さへもモニカはアウゴスチンの母なりと云へば左まで賞するに足らずと云ふものゝ茲に一の最も賞すべきあり如何にも世の母皆其子を愛す去れど多くは姑息の愛にして眞に其子を愛する者にあらず眞に其子を愛する者は其子の魂を愛し其子の生涯を愛するものあり其子の生涯を愛するよりして其子の教育をなし其魂を愛するよりして肉愛の情を制して眞正の道を教ふモニカの如きは眞に其子を愛する人なるか其子を教育するの至れる其家甚た貧しくして財嚢空しきを告ぐる度々なれどアウゴスチンを學校に遣はし普通の學科を修めしめ尙進みて當時文學の中心なるカルセーヂに遣はし專ら教育せしが其資用は皆モニカが勞きて出せし愛の賜なりしと云ふ尙其後も他邦に遊ばせ學ぶ所あらしめしかば當時第一等の教育を受けしめたり數百年後の今日に在りて尙彼が思想に支配せらるゝ事あるは誠に母が教育の至るを證するものなり且つ其魂を愛するは更に甚しきありアウゴスチンが壯年に至るまで眞の神を知らざるを傷く憂ひて日夜に祈願を凝し偏に其子の救はれんことを求め居たりしが其熱心なる嘗て或る僧侶の云ることあり「斯る淚を注がれし子は罰するに由なし」と愈以て其愛情を見るべし斯ればこれを稱して母たるの務を盡したると云ふべきかアウゴスチンの祈に「オ、神よ吾は爾の子なり何となれば我母の如き母を吾に與ひ玉へばなり吾が皆の事に於て眞理に從はんと思ふはこれ母の教へ玉ひし點なり吾が數年の久しき罪の滅と不幸の悲みに遇はざるは母が長き誠の淚の吾が爲めに供をなしたればなり左れば吾は凡の物を我母に歸せざるを得すとあり亦以て證すべし。

斯くの如くモニカは柔和と愛心と無言と順從を以て其夫を救

ひ以て聖書の誠と神の能とを證し慈愛と忍耐と祈禱を以て其子を教育し其子を悔改せしめ以て基督教の基を興し以て歐洲文明の源泉を開けり乃ちこれを稱して婦女の鑑と云ふべきあらずや。

## 寄書

○岩城鶴子を弔ふの歌並に文

丹後宮津の人岩城親雄氏の嬢鶴子は西京師範學校女子部に在つて夙に品行温良學事優等の聞にありし由の處ろ此度卒然として死去せられたれば知人朋友方の哀惜一と方ならず中にも其生前の教員方は特に之を惜しみて岩城氏に其弔文歌を寄せらる之に依て同嬢平素の才德の甚はだ感ずべきを知るのみならず併て其教員諸氏の恩愛尋常ならざるに服するに足る今ま櫻井勉氏之を寫して吾人に恵送せられたるに因り則ち左に掲げて吾人の同感を表すと云ふ。

卒業の後ハ高等師範學校へも出しぬへき吾學校のうまし生徒岩城鶴子をとめか身まかりけるをかなしみてその御靈の前に

助教諭猪熊夏樹

末つひに雲ゐになかむ鶴の子の
いかで千と勢をよりに見るら[illegible]

拜啓始得貴意候御令嬢御葬式之節は公務の爲午後二時半迄學校に止り御見送り出來不申遺憾至極に奉存候歸校途次早速御尋ね申上候處既に御出棺後其節御兩人共御不在不得拜眉甚殘念に奉存候實は小生之申迄もなく十分御承知の通り御令嬢には性質と申し品行と申し才學と申し餘程他人とは異り本校女子部中には比類なき拔群の御方にて卒業の上ハ東京師範學校へと校長始め屬望致し居候處平生躰質の壯健强康なるにも似す忽焉逝去小生十五日の朝之を承り實に殘念遺憾之至りに堪へ不申夢の如き感覺致し早速筆を走らせ思を述へて哭辭を作り草稿之儘十六日内藤御宅迄持參靈前一讀仕度志願之處右樣の次第不得止其儘に相成居處本日御送葬日の一週日に當り不圖思出し棄置難く未定稿の儘拙文愚筆をも顧みず差上申候後日餘暇あれは今少し删正清書可仕候得共兎も角も差上候付卒拙文愚筆を御用捨被下意のある所のみ御取り被下度先は右申上度草々亂筆御免被下度頓首

五月廿二日　田中　義五郎　拜

岩城親雄樣机下

哭岩城君鶴子文（未定稿）

明治二十一年五月十五日京都府尋常師範學校助教諭田中義五郎聞三年生岩城君鶴子喪不堪嗟嘆哀惜之至乃作文以告之靈嗚呼余奉職此校日猶淺矣未詳君何國人而何人子也然其才之德余既有所審焉者余始臨女子二年生教室有一生徒言語明晰坐作温柔性行自異于衆及授業則敏捷而能勉苦學而不倦不審則必推問之與課則必講修之然而未嘗見有自得誇衆之色也余心竊異焉而問之他教員皆曰是岩城氏子每爲級長者我所教亦復如此余於是乎深感其才之秀而其德之美今玆二月定期試業君及第爲三年生而不得爲余所教不相見有日今忽聞其訃余始聞而不信而事實不可誣嗚呼何以然邪聞君以肺患死是因其稟性羸弱而然耶將苦學以至于此耶嗚呼君齡果何歲哉意未至二十矣得無或思鄉里懷父母以發此病耶蓋亦所謂天命也耶抑君之在世余未曾一言以稱之也非不知稱焉凡人被賞則慢恐傷君也然君之才之德告以毀譽褒貶動其心者乎嗚呼余過矣且今之女子讀一篇之漢文解一句之英語則意氣揚々輕躁浮薄無所不至秀才而美德如君者其有幾乎天不知假年於君以矯正彼徒而疾奪其命亦將何意也嗚呼天道者果是耶非耶其如此則何以能勸善懲惡嗚呼君之美名芳聲凡知君之姓聞君之名者皆莫不知焉亦足以戒世之輕浮之徒矣嗚呼悲哉尙饗

辱知　京都　田中　義五郎拭淚拜書

## 新報

●宮廷録事

○行啓　皇后陛下は去月廿九日午前九時御出門帝國大學へ行啓同四十分頃着御事務所階上に於て御休憩あらせられ參集の各員一品熾仁親王殿下二品彰仁親王殿下二品貞愛親王殿下三品威仁親王殿下の御息所森文部大臣辻文部次官渡邊帝國大學總長其の他帝國大學分科大學所屬の高等官外國教師並に其の妻に謁を賜ひ畢て帝國大學總長の奉導にて第一醫院へ臨御内外科各室及施術室御巡覽十二時過御休憩所へ復御御晝餐午後一時半頃より第一醫院分院へ臨御婦人科眼科各室及教室御巡覽動物學地質學植物學の各教室順次に御覽夫より御途次新築の化學教場御通覽地震學衞生學生理學等の各教室へ臨ませられ四時過御休憩所へ復御暫時御休憩の上事務所階下の人類學參考品陳列場へ臨御直に御乘車文科大學法科大學及新築工科大學の模樣を御通覽六時頃還御あらせられたり、是日醫院に於ては患者の病症治術等を教師に御尋問あらせられ其幼稚の者に人形猫狗等の翫弄物を御手づから賜り其他動物學地質學植物學の各教室の陳列品地震學衞生學の諸機械試驗生理學の動物催眠術等詳細に御覽在らせられ醫院へは特に金三百圓を賜はりたる由。

○又　去四日は午後一時より御苑内つゞき御步行にて華族女學校へ行啓遊ばされ各生徒の授業を親しく御巡覽の上五時頃還御あらせられたる由承はりぬ。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○東京女學館

女子教育奬勵會の設立に係る東京女學館の元資は十萬圓にして内五萬圓は官邊の人之を寄附し殘五萬圓を民間の有志者に募集するに付て兼て主なる人々を銀行集會所に招待し外山博士澁澤榮一の兩氏より懇々と其趣きを演述あり當日出席したる二三十名の方々は多く代人なりしに付き何れも歸宅の上へ尙ほ否やの返事を申すべき丈にて引取られたると聞ば前號に記載したる通りなるが去三十一日には彌よ同會幹事の名を以て株金引受の員數申込ありたき旨を催促に及ばれたるよし近來同館の事に付ては世上にても大ひに注意する所ろあり吾人も追て其細報を掲ぐべしと雖ども讀者もし本誌第六十六號に載せたる同館維持豫算の積り書を一覽せば則ち其大躰を推知するに於て余まりあるを覺へん、兎に角高等女學校と云ひ東京女學館と云ひ日に日に如此く進歩の方向に向へんとするを見る何等の喜びぞ。

○男女交際

近來の如く沸りと惡風說を聞くは何故ぞや女學校の敎員方もとより聖人の如く天使の如くならねば決して惡徳の毫毛も無之しとは申しがたし左れど今ま府下の諸女學校の敎師及び主もなる紳士貴婦人方に付て風說する如き評判は決して有るまじきものと信ずたゞくく之によつて一言したきは兎角男女交際に嚴密の規則あるを知らず只だ無暗に親しくするが西洋男女の神髓なりと心得誤まるが故に扨ては此樣の評判をも受くるの基を生ず實にや愼しむべきは先進の開化人なりけり。

○女學の雜誌

女學の雜誌續々と起らんとす現にいらつめ、貴女之友、婦人敎會雜誌、婦人敎育雜誌、及び哀れなれども此の女學雜誌又た婦人方の手に成れる婦人矯風雜誌及び婦人衛生會雜誌等のあるにも係らず此等の供給にては尙ほ足らさるものか金港堂は近々「都の花」を發兌するの計畫あり又女新聞と云へるものも起り(之は次號に一評すべし)育女會よりも婦人敎育會よりも西京の婦人會よりもそれぞく一つ宛の機關雜誌を發行せられんとす、嗚呼盛んなる哉嗚呼盛んなる哉。

○大日本婦人衛生會　去二日午后一時より神田一ツ橋外大學講義室に於て例月常會あり長谷川泰氏の婦人病原擽倣氏の神經病の話の演述あり○去月十二日千葉に設立せられたる同會支會の發會祝ひの爲め本會より荻野ぎん太田いくの二氏參會せられ彼地にて演說せらる○去一日富士見軒に於て會員中の主なる人々及び賛成員若干の小會あり同會擴張の方法に付て色々の相談ありたり。

○米婦人聖書月報に寄附す　ホイトネー秦谷舟氏等の盡力にて發行する聖書の友の聖書月報へ向けニユヨークの婦人傳道會社より金三百弗を寄附し同月報内に一つ宛女の爲め及び子供の爲めと云へる欄を設するよう委頼し越せる由。

○築地四十二番女學校　同校にては去る五日に生徒方の英語文學會あり同六日には卒業式ありたり何れも次號に於て復た記るす所ろあるべし。

○貴婦人會　去月廿二日午後二時より蜂須賀侯爵青木子爵の兩夫人が幹事となり赤十字社に於て貴婦人會を開かれ當日は帝國大學の雇敎師スクリッパー氏が出席して婦人の衛生演說をなし來會者六十餘名ありし由。

○唱歌傳習　東京府廳にて唱歌速成傳習所を置き男女計四十名を募集す志願者は十日までに出願すべしとのこと。

○女子職業學校　神田錦町の同校は生徒の進歩著るしく殊に圖畫科生徒は織物の模樣畫に熟したるを以て小石川柳町に織殿を設立し居る小林綾造氏と特約を結びすべし生徒の下畫を以て其織物に用ゆるよし其他陶器畫の生徒の如きも追々熟練の生徒を出たし各地方の陶工と連格を通ずるに至るべしと云ふ。

○育女會　去月廿三日午後二時より厚生舘に於て同會の常集會を開らかれ竹中成憲石川米子其他二三氏の講談ありて午後五時頃散會したりと。

○婦人會設立計畫　茨城縣新治第一高等小學校長坂本某氏の周旋計畫にて婦人會を新設する由同會は婦人の要務を敎へ智識を開かんとの主旨にて育兒法家內經濟等を講說すると云ふ。

○袋井婦人脩道會　遠州袋井に於て同會を設けられしは本年三月のとにて每月第二第三日曜日沒より開會し講書は通信女學講義錄にて其敎師は松尾正三郞宮崎保之土屋一松松浦定の四氏幹事は西尾平吉村松茂平の兩氏なり又會場取締のため會長に松浦てつ子副會長よ松下こう子を選擧し時々右兩子の脩德の講話あり編物も敎授する樣の目論見にて漸次隆盛に赴く由松浦氏申し越されぬ。

○女生徒の自炊　千葉縣尋常師範學校女子部に於ては此程より生徒三十名を數組に分ち一週間毎に交代して自炊せしむる由なり。

○岡山通信　本縣尋常師範學校の敎師梅津勇之進同馬場次貞同中學校敎師磯山堅豊等の諸氏發起人となり吉備女學校を四番町一番邸に設立せんと出願中なりしが先達て聞屆となりたるに付目下生徒募集中なり○上道郡門田村山陽英和女學校にはいよく盛大となり生徒も附加し從て敎場も狹隘なるに付き新に塾舍一棟敎場一棟新築中なり同校の敎師には神戸女學校卒業生重見光、川本時、田中重等の三女と當地在留の宣敎師等なり何れも懇切に敎授せらるゝ由に聞ゆり○炭谷小梅女が設立せる婦人英學舍の生徒の數は四五十名にして敎師には宣敎師トーカッ夫人と神戸女學校卒業生鹽井京女等なり○斯く諸女學校の盛大に趣くは女流社會の爲に何よりも喜ばしきとなり(東洋壯夫報)。

# 小供談

附り當欄內を借りて母御衆に一言申上ぐ

○義の爲に死せる人

私は世界万物有るとあらゆる物の中にて人間が最も美しひ者であると思ひますが其人間の中にても子供程美しく可愛ひ者は御坐りませぬと申しましても私は母の身分ではありません

から世の母達程と愛することは出來ませぬと子供を美しと思ふ心は世の母達にも讓らぬと自ら信じますそれゆへ忙しきにも抱らずこれまで度々小供衆の爲めにお話を書きましたその美しき子達に向ひて御話を書くことゆへドーヅあの美しき點を損せぬやうイヤ愈其美しき點を增さんやうと心懸けまして書きました誠に美しき柔かな汚のなき白き小羊の如き子達に向ひお話を致すことゝ思へば私が筆先も度々鈍れました世の小供達に向ひてお話をなさるお方は如何なるおん心持にて話さるゝや我身の上よりツイ他人の事まで思ひ出て氣遣しき事も御座れば私が常に思ひ居る一言を申し上げん。

サテ小供衆方に向ひてお話を致すことは小供を敎育する一の方法で御座りまして其敎育中にても最も力あるものと思ひます然れば小供衆に向ひて極適當なる話を致さねばならぬ其適當なる話を致しませんとには小供の心を知らねばなりますまい六ヶ敷申せば小供心理學でも修めねばなりませんサツトテ今更六ヶ敷申す時も御座ませぬ且つお小供衆のお心の有樣及び其發達の次第等荒增は皆さんもお存の事と存じますから心理學の講義は哲學先生に讓りおきまして先づ差當り小供衆に向ひて話を致す心得と申せば智識を啓き道念を强よめ感情を淸く高からしむると云ふ事でありましよ智識を啓き道念を强くする事は大躰お存の事と思ひますから私は述べません只感情を高くすると云ふ事はツイ人の氣付かぬ處にて殊に我邦人の欠ける點と思ひますから此點につき一言致しましよ。

人の不幸を見て不愍やと云ふ心を起しますも感情の一にて善事を爲して嬉しやと思ひますも感情の一で御座ります其感情の働きやうは種々雜多でありますが何しろ感情と申す者は恐しひ强者にて惣て古より英雄とか申して大なる業を致せし人は皆先づ此の感情に動されて後になした事と思はれます感情の働があればこそ吾等は働きます若し此の感情なきときには石佛の如く丸で死だもので御座ります誠に感情と申す者は强ひ力を持つて居ますから其感情を養ふ事は肝心なる事で御座りましよ然し此の感情と申すものは高ひ低ひの有るもので人人に依りて違ひます事は甚しき者でありまして同じ時同じ所に同じ花を看るにつけても花の命の甲斐なしと嘆く人もあり花あり酒なしと酒を思ひ出す人もあり不如解語花と下等の情を起す人もあり花に對して我心を耻づと感ず人もあらんか又アヽ美し哉此の花と見る人もあるべし三千の人は墨田の堤に遊びて又三千の感を起しました其感情の高ひ低ひに從ひて我等



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の利益を受くるに大小がありますから我等の心に持つ感情は高卑に依りまして大なる損益があります總じて日本人は感情がないイヤ感情のなき筈はないに感情はあれど皆卑き賤しき感情計りて高き感情の無き事で御座りましよ昔より充分詩や歌に顯はれて來ました感情がありまして中には慕しき感情もあれど總じて無情を歎き桃源の流を慕ふ計にて至りて簡略で善き所もあれど高ひ感情とは申し兼ねます且つ小説本杯に見へます我等の感情を動すものは重に忠孝の出來事のみ（近時の小説の如きも感情を高くすと云ふ評は下されませぬ惡くすると其反對を見るやも計れぬ）西洋には色々各高き人がありまして誠に氣高き詩歌を詠じ格高き小説を編と申ます私は餘り澤山讀だ事はありませんが全は西洋の詩歌を讀みまして始めて詩歌の味を知りましたやう覺へますと申すは何となく讀む我が心を推し上て高からしむる一種の妙力がありましたからです西洋の或る小説に此の如き事を載せまして美談と稱します。」彼の佛國大改革の時に當りまして王政黨と共和黨との戰爭がありまして或時王政黨は敗北致しまして或城に籠りましたが敵の旗色は逐々と能き有様なるに味方の兵は僅かに十九人計り生き殘ります計りゆへ迚も適わぬ事と思ひ一同落ち行く事と決しまして皆地下に堀りてありました道を通りまして亡げましたが時に其大將は其城を焼き拂ひて後に亡げんと思ひまして城に火を付け急きて亡けます途中にて女の傷く泣く聲が致しますフト不憫と感じまして能く聞けば城の外にて叫ぶ聲にて母親にやありけん其子が今火の上りし城中に焼け死なんとするに誰れぞ助け玉はずやと云ふ聲でありましたサテ其小供と申すは豫て人質として敵より奪ひ歸りまして城の樓に置きましたに餘りの混雜に其事を忘れまして火を付けましたれば既に火の中に在る三人の兄弟でありました彼の大將は其事を思ひ出しまして愈不憫に思ふに母親の聲も愈高ければ今は堪へ兼ね再び城に歸らば焼き死すか但しは擒にせらるゝ何れにても自が命の助からざると知りながらこれを聞ては獨り自ら亡べからずと思ひ返し再び城に歸りまして煙を押分け彼の三人の子を探ね出し救ひ上げ焔の中に階を下りたる時白き鬚は幽かに見へ光る眼は火よりも明なりし有様は天使の天下りしか如く皆共々に仰ぎて拜する計りでありました斯して彼の大將は遂に擒られ城の中に押し込められましたサテ又共和黨の方には彼の大將を殺すべきや否やにつきて彼是と議論がありましたが其中尤も力ある大將が申しますには（未完）

# 東京女學館生徒募集廣告

來る九月より東京女學館へ入學を望まるゝ方は學業履歴を添へ本月三十日迄に事務所へ御申込みあるべし●入學者は年齢十一歳以上にして小學教育を受けたるものあるべし●普通科授業料一ヶ月金貳圓五拾錢寄宿料金拾五圓●入學志願者の數定員に超ゆる時は會員の親族をして他人に先ち入學せしむるものとす●學則其他委細は當事務所に就いて御問合せあるべし

明治廿一年六月四日

麹町區永田町二丁目廿番地

私立 女子教育奬勵會事務所

# ●東京經濟雜誌 第四百二十一號 六月二日發兌

目録◎(官令)數件◎(社説)社會ニ大理アリ○私設鐵道ハ更ニ許可セラレザル乎○讀賣記者ノ美術心◎(論説)米國動產税○外國貿易ニ關スル日本ノ國是ヲ論ス◎(寄書)日本築港論○坪谷氏ノ地方公債ニ關スル杞憂○舊日本新日本ト稱スル事ニ付テ愚見ヲ述ブ◎(雜録)兩毛鐵道開業ノ祝歌○山陽鐵道起工ノ景況○甲信鐵道建設費豫算○兩毛鐵道會社○明治會○私立平田銀行○一八八八年度英國歳計豫算○一八八七年度英國歳計決算○清國北京政府ノ財政○婦人ニ關スル新語○女學ノ解○新日本ト興論記者○井上伯爵ノ演説○在留米國人陸奥公使ヲ饗應ス○二十一年三月中外國貿易ノ景況○東京米商會所ノ延期願聞屆ケラレズ○高島易占第四編○新刊書籍雜誌及ビ新聞◎(金融及商業之景況)各地米商會所ノ商況○横濱ノ商況○東京金融ノ景況○東京公債及株券ノ商況○同限月米及正米ノ商況○同諸商品ノ商況

定價 一冊金七錢○十冊前金六十五錢○半年分前金一圓五十六錢○府外ハ一冊ニ付郵税一錢宛增

東京々橋區彌左衛門町七番地

經濟雜誌社

# ●日本文學會第五回普通專問書科會員募集廣告

普通科第五回學科。歴史。衛生。植物。法學。誌傳。雜記。
專問科。經濟。論理。但シ二科兼習スルモ妨ケナシ

●抑モ本會ガ去ル明治十八年四月始メ米國新約州セヨトクワ文學會ニ氣脈ヲ通ジ本會ヲ設立シ普通專問書科共各一定ノ科書ヲ編纂シ之レヲ會員ニ發附シ自宅獨習ノ便法ヲ以テシ且質問法ヲ設ケテヨリ日尚淺モ今ヤ全國ニ三千有餘ノ會員ヲ得四年間學科卒業セバ米國本會ヨリ卒業證ヲ附與スルヿニテ今第五回會員ヲ募集スルノ際ニ一大改良ヲ加ヘ廿一年度普通專問ノ書會員ヲ募集セントス有志ノ諸君ハ來六月卅日限リ申込アルベシ郵券二錢投セラレバ明細規則書ヲ送ルベシ

明治廿一年第五月

大阪西區京町堀四丁目廿一番地

日本文學會本部

故東京女子專門學校教頭木邨秀子女史著

# ●交際論 全一册

正價郵税共金二十五錢

此者ハ大學撰科を許されたる故木邨秀子が其平素講究せし英獨等の諸書に就き更に自己の經驗したる實例に基き人類處世の大本たる交際の方法を椽大の筆を揮ひ論述したるものにして其概目を擧ぐれば自己の交際を務る方法異質の人と交際する方法年齢不同の人と交際する方法年少者と交際する方法男女の交際方法敵友と交際する方法親子同胞の交際方法等の數章に別ち毎章詳細に其交際の方法利害注意等記載したるを以て一たび之を披閲する時は人の交際を圓滑ならしむるの益あり世の交際場裏に婆娑する貴紳令娘幸ひに瀏覽の榮を賜へ

東京々橋區南鞘町十八番地

正文堂 朝野文三郎

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

當塾女子部は六月一日より更に毛糸編物幷に作花の二科を増加し「アンクスター」孃毎日出席懇切丁寧に教授す

# 東京 本所松坂町 回向院裏 私立 江東義塾

Ⓨ

# 吉岡書籍店廣告

女學雜誌愛讀の貴女各位益々御清榮奉賀候陳は弊店に於て今般女學雜誌社發兌書籍を悉皆大賣捌仕候間續々御注文被下度候

女學雜誌愛讀の貴女各位に申す弊店に於てヲルガン製造相始め專ら丈夫廉價を主とし特に一ケ年の保險を附し申候代價わ

おるがん

小形上等　金二十三圓
小形並　金十八圓

女學雜誌愛讀の貴女各位に申す弊店は明治女學校東洋英和女學校哲女館を始めとして諸女學校へ書籍上納致專ら廉價正實を主とし少しも掛直等無之候間御安心御求被下度女學校等多數書籍御入用の方へは當方より時々出張御用相伺可申候

Ⓨ

# 吉岡書籍店

東京神田區南乘物町三番地

# 改良 上等牛乳販賣廣告

定價 壹合金二錢八厘 五勺金一錢五厘

毎日三合以上御飲用は壹合金二錢五厘の割

弊舍ハ主ノ御恩惠ト御得意各位ノ御引立ニヨリ日增ニ盛大ニ赴キ難有奉謝候依テハ猶一層注意仕前記ノ低價ト速達ヲ以テ廣ク貴需ニ應ズ御飲用ノ上益々御高評アランコヲ

# 牛乳專業 北豐島郡坂本村 相愛舍

| 發兌 | 定價 | 廣告 |
|---|---|---|
| 四月。七日　十四日　廿一日　廿八日<br>五月。五日　十二日　十九日　廿六日<br>六月。二日　九日　十六日　廿三日　三十日<br>七月。七日　十四日　廿一日　廿八日 | 一册。五錢　郵税。一錢（但府内無郵税）<br>十册。四十八錢郵税。十錢（同前）<br>半年分　一圓十七錢　府外は　一圓四十三錢<br>一年分　二圓卅四錢　府外は　二圓八十六錢 | 特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を募するに右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む<br>一行（廿七字詰）一回　前金拾錢<br>同　三回以上　一割引<br>同　六回以上　二割引<br>十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし |


WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

明治廿一年五月廿九日
自第百十二號
至第百廿一號
拾册
版權登録

明治二十一年六月七日印刷
明治二十一年六月九日出版

東京京橋區日吉町八番地
發行所 女學雜誌社

東京京橋區日吉町八番地寄留
編輯兼發行人 巖本善治

東京芝區源助町十一番地寄留
印刷 森田豐